永遠の真理

ETERNAL TRUTH

2021年 10月

「天国で」「救いの記念（II）」「キリストわたしたちの唯一の希望」「麻婆豆腐」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強
「救いの記念（II）」 4
聖書の教え

朝のマナ
天国で 8
In Heavenly Places

現代の真理
「キリストわたしたちの唯一の希望」 40
キリストと律法

力を得るための食事
「麻婆豆腐」 44
レシピ

お話コーナー
「はじめに戻る（I）」 46
聖書物語

【正丸教会】
〒368-0071　埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】
〒905-2261　沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp
メール　sdarm.shomaru@gmail.com

発行日　2021 年 9 月 5 日
編集＆発行　SDA 改革運動日本ミッション
〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: iStock on Front page; Sermon View on page 48

Printed in Japan

神の子－ヤコブの残れる者－

「しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである」（ヨハネ 1:12）。

「ここに人類を高めることのできるただ一つの力がある。そしてこの働きをなしとげるために人間のできることは、神のみことばを教え、実行することである。…今も、キリストの時代と同じように、神の国の働きは、…受け入れる人々に、『わたしはキリストと共に十字架につけられた。生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである』とのパウロの経験をさせるような霊的真理が、キリストのみ名によって民に宣言する人たちの手にあるのである（ガラテヤ 2:19）。」（各時代の希望中巻 315, 316）

「キリストは『平和の君』である（イザヤ 9:6）。キリストのみわざは、罪が破壊した平和を天と地に回復することである。『このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている』（ローマ 5:1）。だれでも罪と絶縁することに同意し、キリストの愛に心を開く者は、この天の平和を持つ者となる。

これ以外に平和の基はない。…神との平和また隣人との平和を保っている者は、決して不幸になることはない。彼の心には嫉妬はない。そこには悪意の入る余地がない。…神と調和している心は、天の平和の共有者である。そして周囲のすべての者に、その祝福された感化を及ぼすのである。平和の精神は、世の争いに疲れ、悩む人々の心に、露のようにとどまる。

キリストに従う者たちは平和のメッセージをもって世に遣わされている。清い生活の静かな無意識の感化によってキリストの愛を表し、言葉と行為によって、他の人に罪を捨てさせ、心を神に捧げるように導く者は平和をつくり出す人である。『…彼らは神の子とよばれるであろう』（マタイ 5:9）。…その生活の香り、その品性の美しさは、彼らが神の子らである事実を世に示している。人々は彼らがイエスと共にいたことを知るのである。『すべて愛する者は、神から生まれたものであ』る（ヨハネ第一 4:7）。『もし、キリストの霊を持たない人がいるなら、その人はキリストのものではない』、しかし、『すべて神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である』（ローマ 8:9, 14）。

『その時ヤコブの残れる者は多くの民の中にあること、人によらず、また人の子らを待たずに主からくだる露のごとく、青草の上に降る夕立のようである』（ミカ 5:7）。」（祝福の山 33-35）

聖書の教え–現代の真理–

第24課　救いの記念（II）

主の晩餐

「一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、『取って食べよ、これはわたしのからだである』。また杯を取り、感謝して彼らに与えて言われた、『みな、この杯から飲め。これは、罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のために流すわたしの契約の血である』。」（マタイ 26:26-28）。

弟子たちの足を洗われてすぐ、イエスは過越の祭の食卓につかれ、そのまま続けて主の晩餐というもう一つの儀式を制定されました。

イエスは、十字架の影におられました。ほんの2、3時間のうちに、群衆によって連れ去られ、罵られ、拷問され、十字架につけられるのでした。このお方の体はくぎや槍によって刺しとおされることになるのでした。まもなくその血が流されるのでした。このお方は、これら全てのことに自らすすんで耐えようとしておられましたが、それは自分自身の行いのためではなく、他の人々の罪の許しのためでした。

そのためイエスは教会の中に、人のために、犠牲の生涯の模範として耐えなければならない苦しみそのものを象徴する儀式を制定しようとしておられました。

過越の祭は、エジプトの奴隷生活からのイスラエル解放を記念するために制定されました。神は、毎年子供たちがその儀式の意味についてたずねるとき、その歴史を繰り返すようにとお命じになりました。こうして、素晴らしい救出が、すべての人々の思いの中で生き生きと保たれるのでした。主の晩餐の儀式は、キリストの死の結果として成し遂げられた偉大な救いを記念するために与えられました。このお方が力と栄光のうちに再臨なさるまで、この儀式は守られることになっています。これは、わたしたちのためになされたこのお方の偉大な働きを、わたしたちの思いの中で生き生きと保つ手段なのです。「わたしは、主から受けたことを、また、あなたがたに伝えたのである。すなわち、主イエスは、渡される夜、

パンをとり、感謝してこれをさき、そして言われた、『これはあなたがたのための、わたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい』。 食事ののち、杯をも同じようにして言われた、『この杯は、わたしの血による新しい契約である。飲むたびに、わたしの記念として、このように行いなさい』。だから、あなたがたは、このパンを食し、この杯を飲むごとに、それによって、主がこられる時に至るまで、主の死を告げ知らせるのである」（コリント第一 11:23-26）。

パン

荒野を通じてヘブル人を養ったマナは、天からの真のパンの型でした。命を与える御霊こそ、神の無限の満ち満ちた無限の神から流れ出る真のマナです。イエスは次のように言われました。「神のパンは、天から下ってきて、この世に命を与えるものである」。「わたしが命のパンである」（ヨハネ 6:33, 35）。

しかし、これらの象徴でさえ、信者とキリストとの関係における特権を十分に表してはいません。「生ける父がわたしをつかわされ、また、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者もわたしによって生きるであろう」（ヨハネ 6:57）。

神の御子が父なる神を信じる信仰によって生きられたように、わたしたちはキリストを信じる信仰によって生きなければなりません。主の晩餐で用いられたパンは、過越の祭の間に用いられた種入れぬ種類のものでした。種入れぬパンは、汚されておらず、きずのない神の小羊の象徴としてふさわしいものです。パン種は罪の象徴であることから、許されていませんでした。イエスご自身、弟子たちに次のように説明されました。「パリサイ人のパン種、すなわち彼らの偽善に気をつけなさい」（ルカ 12:1）。

使徒パウロは、また、パン種が邪悪、悪意等の象徴であると述べている。「新しい粉のかたまりになるために、古いパン種を取り除きなさい。あなたがたは、事実パン種のない者なのだから。わたしたちの過越の小羊であるキリストは、すでにほふられたのだ。ゆえに、わたしたちは、古いパン種や、また悪意と邪悪とのパン種を用いずに、パン種のはいっていない純粋で真実なパンをもって、祭をしようではないか。」（コリント第一 5:7,8）。

わずかなパン種が、パン生地全体をふくらませるように、小さい罪が生活の中に残ったままにされるとき、人全体を汚してしまいます。しかし、キリストはそう

ではありませんでした。「キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった」（ペテロ第一 2:22）。

ぶどう酒

過越のぶどう酒は、発酵していない純粋なぶどう汁であり、汚れのないキリストご自身のきずのない犠牲を象徴しています。発酵、すなわち罪と死の象徴によって汚された物は何一つ、「きずも、しみもない小羊のようなキリスト」（ペテロ第一 1:19）を象徴することはできませんでした。

預言者イザヤが「ぶどうのふさ」の中に新しいぶどう酒があり、そして、「それを破るな、その中に祝福があるから」（イザヤ 65:8）と述べているとき、これを指しているのです。

ぶどう酒は、このお方の血の象徴です。その血は、許しを得るためにこのお方のところに来て、救い主として受け入れるすべての人々の罪をきよめるために流されました。

発酵は、純粋で健全な実を汚します。「酒は人をあざける者とし、濃い酒は人をあばれ者とする、これに迷わされる者は無知である」（箴言 20:1）。

わたしたちの霊的な生活は、この儀式に頻繁に参加することにより依存しています。

「イエスは彼らに言われた、『よくよく言っておく。人の子の肉を食べず、また、その血を飲まなければ、あなたがたの内に命はない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があり、わたしはその人を終りの日によみがえらせるであろう。わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物である。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者はわたしにおり、わたしもまたその人におる。生ける父がわたしをつかわされ、また、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者もわたしによって生きるであろう。天から下ってきたパンは、先祖たちが食べたが死んでしまったようなものではない。このパンを食べる者は、いつまでも生きるであろう』。」（ヨハネ 6:53-58）。

わたしたちが主の晩餐にあずかる前に、わたしたちは自分自身の心の誠実さと純粋さを吟味すべきです。

「だれでもまず自分を吟味し、それからパンを食べ杯を飲むべきである。主のからだをわきまえないで飲み食いする者は、その飲み食いによって自分にさばき

を招くからである」（コリント第一 11:28,29）。

「あなたがたに言っておく。わたしの父の国であなたがたと共に、新しく飲むその日までは、わたしは今後決して、ぶどうの実から造ったものを飲むことをしない」（マタイ 26:29）。

「主がこられる時に至るまで」（コリント第一 11:26）、このお方の死を示すべきこの聖なる儀式を制定するにあたり、イエスはこれがご自分の再臨まで、ご自分の教会によって繰り返されるべきことを明確になさいました。

「だから、あなたがたは、このパンを食し、この杯を飲むごとに、それによって、主がこられる時に至るまで、主の死を告げ知らせるのである」（コリント第一 11:25,26）。

主の晩餐はしばしば行われるべきであり、世の罪のための主の裏切りや十字架の厳粛な光景を信徒たちの記憶に生き生きと保つべきです。このお方はご自分の信徒たちが救いのためにたえずご自分の血と裂かれた体に依存していることを自覚するよう望んでおられます。

天国で

In Heavenly Places

10 月

地上の神の教会

「この主のみもとにきて、あなたがたも、それぞれ生ける石となって、霊の家に築き上げられ、聖なる祭司となって、イエス・キリストにより、神によろこばれる霊のいけにえを、ささげなさい。」（ペテロ第一 2:5）

地上の教会は神の宮であり、世の前に神聖な役目を帯びるべきである。この建物は、世の光となるべきである。それは、互いに密接に築かれた生ける石で構築され、石と石はぴったりと組み合わされて、堅固な建物でなくてはならない。これらのすべての石は、同じ形や大きさではない。あるものは大きく、あるものは小さい。しかし、各々自分の占めるべき場所がある。この建物全体に、ひとつとして形のゆがんだものがあってはならない。各々完全である。そして、それぞれの石は生ける石、すなわち光を放つ石である。石の価値は、世に反射する光によって決定する。

今は、石が世という石切り場から切り出されて、神の作業場に持ち込まれて、輝くことができるために刻まれ、四角にされ、磨かれるべき時である。これが神のご計画であって、神は、真理を信じると公言するすべての者たちが、この時代のための偉大で、壮大な働きの中で各自の持ち場を占めることを望んでおられる。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1900 年 12 月 4 日）

天使の建築家が天から、その金の測り竿をもってきた。それは、すべての石が、天の記章のように輝き、あらゆる方面に向かって、明るく、はっきりとした義の太陽の光線を放射するために、神の測りに従って刻まれ、四角にされ、磨かれることができるためである。（牧師への証 17）

この世で、わたしたちは、良い働きにおいて輝かなければならない。主は、イエスが神のご品性、すなわち神の愛の光を反射なさったように、ご自分の民がそれを反射することを要求される。わたしたちがイエスを仰ぐとき、わたしたちの生活全体が驚くべき光で赤々と輝くのである。わたしたちのすべての部分が光とならなければならない。そのとき、わたしたちがどちらを向いても、光がわたしたちから他の人々へ反射されるのである。キリストが道であり、真理であり、命であられる。このお方には、少しの暗いところもない。であるから、もしわたしたちがキリストのうちにあれば、わたしたちのうちにも、暗いところがないのである。（手紙 43, 1899 年）

地上の教会は聖なる愛の宮廷とならなければならない。……クリスチャンの親交は、品性形成の手段の一つである。こうして、利己心が生活から清められ、男女は偉大な中心であられるキリストに引き付けられる。このようにご自分に従う者が、ご自分と御父が一つであられるように一つになるように、というこのお方の祈りが聞かれるのである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1904 年 1 月 14 日）

10月2日

神の家のメンバー

「そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。またあなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。」（エペソ 2:19, 20）

主イエスは人間の心に、ご自分のあわれみと豊かな恵みを表されることによって、実験を行っておられる。このお方が驚くばかりの変化をもたらしておられるので、サタンは……彼らを自分の詭弁と欺きに対する難攻不落の要塞として眺めている。彼らはサタンにとって理解不可能な奥義である。神の御使たちは……堕落した人間、かつては怒りの子らであった者たちが、神の息子娘となるために、また天での働きと喜びにおいて重要な役割を果たすために、キリストの訓練を通して神に似た品性を発達させているのを、驚きと喜びをもって見ている。（牧師への証 18）

主は、ご自分の教会に能力と祝福とを備えてこられた。それは、彼らが世に主ご自身の力のみかたちを提示し、また主の教会がこのお方にあって完全なものとなり、絶えずもう一つの、すなわち地上の法律よりも高尚な永遠の世界の律法を代表するためである。このお方の教会は、神のかたちにしたがって建設される宮とならなければならない。……

キリストはご自分の教会に対して、豊かに便宜を図ってくださった。それはご自分が贖い買われた所有から、栄光の大きな収益をご自分がお受けになることができるためである。教会はキリストの義を授けられたこのお方の倉庫であって、そこにはキリストのあわれみ、その愛、その恵みの富が入っており、それらは十分に明らかに示されるのであった。このお方のとりなしの祈りにおける宣言、すなわち、わたしたちに対する御父の愛は、ひとり子のご自分に対する愛と同様に大きく、また、わたしたちは永遠にキリストと御父と一つになって、このお方のおられるところでこのお方と共にいるであろうという宣言は、天の万軍にとって 驚きであり、また彼らの大きな喜びである。このお方の聖霊の賜物は豊かで満ち満ちており、あふれるばかりであるが、このお方の教会にとって、地獄の勢力が打ち負かすことの ない周囲をめぐらす火の垣となる。彼らの汚れのない純潔としみのない完全のうちにあって、キリストはご自分の民をご自分のすべての苦しみ、その屈辱、そして、その愛の報酬としてご覧になる。そして、このお方、すなわちすべての栄光を放射している大中心の栄光を補足するものとしてご自分の民をご覧になるのである。（同上 18-19）

10月3日

神の最も優しい保護の対象

「このキリストにあって、建物全体が組み合わされ、主にある聖なる宮に成長し、そしてあなたがたも、主にあって共に建てられて、霊なる神のすまいとなるのである。」(エペソ 2:21, 22)

神の生ける教会は、各々霊による神の住まいである。それは人が、神の聖霊が内住される良く造られた宮となることができるためであり、また主イエス・キリストがその人の存在の最深部にお住まいになって、その人間の性質がこのお方の神の特質によって高められ、聖化されるためである。(原稿 193, 1898 年)

キリストの教会は世にあるべきであるが、世のものとなってはならない。神の民を共に教会の中に召すことによって、神は彼らがクリスチャン家族を形成し、日ごとに上にある家族のメンバーとしてふさわしくなるように意図しておられる。

神はこうしてご自分のみ言葉のうちに信者を一つの体にかたちづくり、彼らの感化力が互いに、また世に対して祝福となることができるようになさる。各々改心したメンバーは、品性の変化を表し、そして全体の勇気と信仰によって強められ、支えられる。最も弱い聖徒も、もしキリストを信じるならば、キリストの体の一員なのである。そして、もし彼が神に謙遜により頼んで生きるならば、彼は強くなる。なぜなら、彼はあらゆる神の子の特権に対して権利を有しているからである。(同上 157, 1899 年)

教会は、神の最も優しい愛と保護の対象である。もし、教会員がこのお方にしていただくなら、このお方は彼らを通してご自分のご品性を現されるのである。このお方は彼らに「あなたがたは世の光である」と仰せになる。神と共に歩み、語る人々は、キリストの優しさを実践する。彼らの生活において、寛容、柔和、そして自制が聖なる熱心さと勤勉さと結合する。彼らが天へ向かって前進するとき、鋭く荒々しい品性の刃は消えてなくなり、いつくしみが見られるのである。聖霊は、恵みと力に満ちて、思いと心に働く。(同上 63, 1901 年)

キリストはご自分の教会がインマヌエルの栄光を持った天の光で輝く変えられた体になるために備えをしてこられた。すべてのクリスチャンが光と平安の霊的な雰囲気に囲まれるようにというのが、このお方のご目的である。

自己を捨て、聖霊が心に働く余地を与え、完全に神に献身した生活を送る者の有用性には限りがない。(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1908 年 4 月 30 日)

10月4日

「目の玉」

「あなたがたにさわる者は、彼の目の玉にさわるのであるから、あなたがたを捕えていった国々の民に、その栄光にしたがって、わたしをつかわされた万軍の主は、こう仰せられる。」（ゼカリヤ 2:8）

キリストの教会は、弱々しく欠点があるかもしれないが、地上において、キリストがその最高の関心をお注ぎになる唯一の対象である。……主は民、選ばれた民、すなわちご自分の教会をもっておられる。それは、ご自身のもの、ご自身の要塞とするためであり、このお方はそれを罪に打たれた反逆の世に保持されるのである。（牧師への証 15, 16）

教会は神の財産であり、教会が世にサタンの誘惑の下にあるとき、神はいつも教会を覚えておられる。キリストは、決してご自分の屈辱の日々を忘れてはおられない。ご自分の屈辱の場面から去られるとき、イエスは少しもご自分の人性を失われることはなかった。このお方は同じ優しくて同情深い愛を持っておられ、いつでも人間の苦悩を思いやってくださるのである。このお方はいつも、ご自分が悲しみの人であったこと、病を知っておられたことを思いにとどめておられる。このお方は、ご自分の踏みにじられた律法を掲げようと苦闘しているご自分の代表者たる民をお忘れにならない。このお方は、ご自分を憎んだ世が彼らを 憎んでいることをご存知である。イエス・キリストは天へ移られたが、なおこのお方を信じる者たちをこのお方の無限の愛の心に結びつける生きた鎖があるのである。最も低く弱い者も、このお方の心近くに同情の鎖によって結ばれている。このお方はご自分がわたしたちの代表者であり、ご自分がわたしたちの性質を負っておられることを決してお忘れにならない。

イエスは、地上におけるご自分の真の教会をご覧になる。その教会の最大の望みは、魂を救う壮大な働きにおいてこのお方と協力することである。このお方は、悔悟と力のうちに捧げられた彼らの祈りを聞かれる。そして全能者は、だれであれ試され、試みられているキリストの体の一員の救いのための彼らの嘆願を退けることがおできにならないのである。……イエスは、いつもわたしたちのためにとりなしをなさるために生きておられる。わたしたちの贖い主を通して、真の信者が受けられない祝福があろうか。教会は、まもなく最も厳しい戦いに入ろうとしているが、地上において神にとって最もいとしい対象なのである。

悪の同盟は、下からの力に沸き立つであろう。そして、サタンは自分が悪魔的な発明や偽りによって欺いたり、惑わしたりできない選ばれた者たちに、ありとあらゆる非難を投げかけるであろう。しかし、「君としてまた救い主として」高められ……（使徒行伝 5:31 英文訳）、イエス、すなわちわたしたちの代表であり頭であられるお方は、ご自分の心を閉ざし、その御手を引っ込めて、ご自分の約束を違（たが）われるのであろうか。否、断じてそのようなことはないのである。（牧師への証 19, 20）

10月5日

天の住まいにふさわしい者となる

「また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。」（エペソ 5:27）

キリストはまもなく、天の雲に乗っておいでになる。そしてわたしたちは、このお方に会う準備をしなければならない。しみもしわもその類のものが一切あってはならないのである。……神の改心させる力がわたしたちの心に働かなければならない。わたしたちはキリストの生涯を研究し、神の模範を真似なければならない。わたしたちは、このお方のご品性の完全さを熟考し、そして、このお方のみかたちに変えられなければならない。自分の意志がキリストのご意志に捕らえられない限り、だれ一人として神の王国に入ることはないのである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1911年12月5日）

クリスチャンだと公言している者たちが、あまりにも低地に近くとどまりすぎている。彼らの目はただ俗なる事柄だけを見るように訓練されており、そして彼らの思いは、自分たちの目が見ることを考え続けている。彼らの宗教的な経験は、しばしば狭くて満足を与えるものではなく、そして彼らの言葉は軽々しくて価値がない。そのような者がどうしてキリストのみかたちを反映することができるであろうか。彼らはいかにして、義の太陽の明るい光線を送ることができるであろう。……

天は、何一つ罪のないところであり、どんな汚れや不純もないところである。そしてもし、わたしたちがその大気の中で生きたいのであれば、もしわたしたちがキリストの栄光を見たいのであれば、わたしたちは、このお方の恵みと義によって心が純潔で、品性が完全にならなければならない。わたしたちは楽しみや娯楽に夢中になってはならない。そうではなく、キリストがわたしたちのために用意しに行かれた栄光の住まいにふさわしい者となっていかなくてはならない。……

キリストはまもなく栄光のうちにこられる。そして、このお方の大権が表されるとき、世は自分たちがこのお方の恩寵を得ているならと願うのである。そのとき、わたしたちは皆天の住まいに場所を持っていることを望む。しかし今、言葉と生活と品性においてキリストを告白しない者たちは、このお方がそのときにご自分の御父と聖天使たちの前で自分たちを告白してくださると期待することはできないのである。……ああ、自らを小羊の婚宴の食事にふさわしい者とした人々、キリストの義をまとい、このお方の麗しいみ姿を反映している人々のいかに幸なることであろう。彼らは聖徒の義である純白の麻布の衣を身にまとっている。そしてキリストは彼らを生ける水のほとりへと導かれる。神は彼らの目からことごとく涙を拭い去ってくださる。そして、彼らは、神の命と平行して流れる命を持つのである。（同上）

10月6日

家名に忠誠を尽くす

「キリストに合うバプテスマを受けたあなたがたは、皆キリストを着たのである。」（ガラテヤ 3:27）

クリスチャンの名を語る者たちは、自ら神に対して真実な者となることを誓ったのである。彼らは、家族の絆でこのお方や天の御使たちに結び合わされている。……あらゆる面における彼らの行動は、聖徒にふさわしいものでなければならない。不相応なものはすべて捨てねばならない。彼らは新しく聖なる生涯を送らなければならない。……

勇敢な兵士のように、あなたは将のご命令に従わなければならない。たとえ、そうすることによって命を犠牲にすることがあったとしてもである。……思いと体はいまや最大の注意をもって扱われなければならない。なぜなら、それらはキリストのものだからである。日毎に彼らは、向上しなければならない。それは熱心に見ている天の御使たちに、キリストがあなたのために死なれたのは無駄でなかったということを明らかにするためである。

あなたがクリスチャンの名を語るようになったとき、あなたはこの世の生涯において、神の王国におけるより高尚な生涯のために準備することを約束したのである。クリスチャンになるということはキリストのようになるという意味である。サタン的な特徴は一つとして、思いにも体にも残されていてはならない。それらは、麗しさ、純潔さ、高潔さそして尊厳を表すべきである。キリストの生涯をあなたの模範としなさい。永遠をいつもあなたの視野に入れていなさい。そのときあなたは、キリストがそれほどまでに代価を支払ってくださった嗣業のこのお方の高い評価に幾分近づくのである。

キリストのために働く者たちは、自分たちの原則を聖く保ちなさい。生活をいかなる汚染された習慣によっても汚してはならない。全天は人のうちに神の道徳的みかたちが回復されることに関心を持っている。全天はこの目的のために働いている。神と聖天使たちは、人類が到達できるようになるためにキリストが死んで下さった完全の標準に彼らが達することを非常に切望しておられる。わたしたちがキリストと一つになり、キリストのうちに完成されること、わたしたちが天の相続者となることが、このお方の願望である。しかし、選択の自由はわたしたちにゆだねられている。 神は、わたしたちが天の御使たちとつながり、リバイバルを起こし回復する感化力を持つ原則を自分のものとする正しい側の選択をするようにと招いておられる。それらの原則は不服従によって失われた道徳的かたちを回復するのである。信仰によってわたしたちが、キリストの生涯を特徴づけた原則を適用するとき、それらは魂の中で泉のように、永遠の命へと湧き上がる。魂はキリストの恵みの富があふれ流れ、そして、このあふれ流れたものが他の魂を清新にするのである。（手紙 21, 1901 年）

10月7日

相互依存の関係

「もし一つの肢体が悩めば、ほかの肢体もみな共に悩み一つの肢体が尊ばれると、ほかの肢体もみな共に喜ぶ。あなたがたはキリストのからだであり、ひとりびとりはその肢体である。」（コリント第一 12:26, 27）

主のご計画において、人類は互いに必要とするようになされてきた。神はすべての者にタラントをお委ねになったが、それは他の人が正しい道に歩む助けとなるよう用いるためである。わたしたちが自分たちのタラントを向上させ 増し加えるのは、他人のためになす無我の奉仕によってである。

機械のさまざまな部品のように、すべての人が互いに近く関係している。そして、すべての人が偉大なひとつの中心に依存しているのである。多様性の中に一致がなくてはならない。主の会社の一員は、だれ一人として独立して働いては成功できない。各々神の監督の下に働かなければならない。すべての人は、自分たちに委ねられた能力をこのお方の奉仕に用いるべきである。それは各自が全体の完全な助けとなることができるためである。……

クリスチャンだと主張する者は、自分を吟味し、自分の同胞が自分に対してそうあってほしいと望むくらい自分が同胞に対して親切で思いやりがあるかどうかを確かめるべきである。……キリストは、地位や富がわたしたちの互いの取り扱いにおいて差別を生じさせるべきでないこと、そして、天の光にあっては、皆兄弟であることをお教えになった。地上の所有や世的な誉れは、神が人を評価なさるときに考慮されない。このお方は、すべての人を平等に創造された。このお方は人を偏り見ることがない。このお方は人の価値をその品性の徳にしたがって計られる。

真の信心深さを持つということは、互いに愛し、互いに助け、わたしたちの生活にイエスの宗教を明らかにするという意味である。わたしたちは、キリストとの愛が助けを必要としている人たちに流れていく献身した水路となるべきである。……神の律法に最も近づいて服従する人は、最も神へ奉仕をする人である。このお方のいつくしみ、このお方の同情、このお方の人類家族に対する愛を得ようと手を差し伸べつつキリストに従う人は、神にご自分と共に働く者として受け入れられる。……

主の民が、柔和と互いに対する優しさで満たされるとき彼らは、自分たちの上にひるがえるこのお方の旗印が愛であることに気づくようになる。そして、このお方の実は、彼らの舌に甘いのである。天は、地上で始まる。彼らは、上にある天のために準備するこの地を天にするのである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1909 年 5 月 13 日）

10月8日

一つの兄弟愛

「主よ、あなたをおそれず、御名をほめたたえない者がありましょうか。あなただけが聖なるかたであり、あらゆる国民はきて、あなたを伏し拝むでしょう。あなたの正しいさばきが、あらわれるに至ったからであります。」（黙示録 15:4）

キリストはわたしたちが自分たちの関心は一つであることを悟るようにと望んでおられる。神なる救い主は、すべての人のために死なれた。それは、すべての人がこのお方のうちに自分たちの神なる源を見出すことができるためであった。キリスト・イエスにあってわたしたちは一つなのである。一つの名、すなわち「われらの父よ」という言葉を口にすることによって、わたしたちは、同じ地位にまで引き上げられる。わたしたちは、王家の一員となり、天の王の子となるのである。このお方の真理の原則は、貧富や身分の高低が何であれ、心と心を結び合わせる。

聖霊が人の思いを動かされるとき、人とその同胞の間のあらゆる些細なつぶやきや非難は取り去られる。義の太陽の明るい光線が思いと心の部屋の中に差し込む。わたしたちが神へ礼拝するとき、そこには、貧富や皮膚の色の区別はなくなる。すべての偏見は溶け去るのである。わたしたちが神に近づくとき、それはひとつの兄弟愛のようになる。わたしたちは、旅人であり寄留者であって、よりよい地、すなわち天国へと向かっているのである。そこではすべての誇りすべての非難、すべての自己欺瞞は永遠に終わりを告げる。すべての仮面は捨て去られ、わたしたちは、「このお方をありのまま見る」のである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1899 年 10 月 24 日）

わたしたちの礼拝の家は、とてもつつましいものかもしれないが、それでも神に認められるのである。 もし、わたしたちが霊と真と聖なる麗しさをもって礼拝するならば、それは、わたしたちにとってまさに天国への門となる。神のすばらしいみ働きの教訓が繰り返されるとき、そして心からの感謝が祈りや歌に表現されるとき、天からの御使たちは歌に唱和し、神への賛美と感謝に加わるのである。これらを実行するとき、サタンの力を押し戻す。彼らは、つぶやきや不平を追い出し、サタンは足場を失う。

神はわたしたちに、わたしたちが完全な愛の特質を培うためにご自分の家に集まるべきだと教えておられる。これによって、地の住民はキリストがご自分を愛する者たちのために用意しに行かれた住まいにふさわしいものとされる。そこでは、安息日ごとに、新月ごとに、彼らが聖所に集まり、より高尚な歌の音に、また御座に座しておられるお方と小羊への感謝と賛美に、とこしえからとこしえに一つになるのである。（同上）

10月9日

互いに助ける

「愛にあって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。」（エペソ 4:15）

わたしは、わたしたちの心のうちに、決して一言たりとも兄弟姉妹に難色を示す言葉を出さないと誓いを立てられるようにと願う。彼らも誘惑されている者であり、それがあなたの誘惑より強いかもしれないということを覚えていなさい。……最も過ちに陥っている人が、最もあなたの助けを必要としている人なのである。彼らのうわさをしたり、彼らの品性について意見を述べたりするのではなく、イエスの愛と真理の愛のうちに彼らのところへ行き、彼らを助けるように努めなさい。

あなたが疑いに悩まされ、あなた自身の魂が闇に取り囲まれているとき、あなたがこの闇から抜け出すためにとるべきまさに最善の方法は、失望しているほかの人を助けることである。あなたが他人を引き上げようと努力するときあなた自身が神との緊密なつながりへと引き上げられるのである。あなたが他人に親切を示すとき、自らを助ける。なぜなら、同じものがあなた自身に反射して戻るからである。魂のうちにキリストが最も多くいる人が、助けを必要としている魂に最もやさしい同情を表すのである。……

あなたがたの中には、いつでも誤っている者たちがいることであろう。そして、ここでこそ、あなたはクリスチャン品性を表すことができる。彼らをあなたの前から追いやってはならない。かえって、もし、あなたが光を持っているなら、それが彼らの上に輝くように努めなさい。そして、この方法によって、あなたは彼らが天に向かうのを助けることができる。キリストの霊を持っている魂はすべて、キリストの働きをするのである。そして、もしだれかが、キリストから迷い出ている人を見るならば、彼はキリストが失われた羊に対して感じられたのと同じように感じるのである。囲いには九十九匹がいるが、このお方は、迷い出た一匹の羊のために出て行かれた。これがわたしたちの表すべき精神である。神の子供として、わたしたちは光のうちに歩むべきである。そして、わたしたちが光のうちに従うとき、わたしたちは他人の道を明るくするのである。わたしたちは神に対する感謝の気持ちを培おうではないか。そうするとき、わたしたちは小さな困難に目を留めなくなる。そしてわたした ちの兄弟姉妹が過ちを犯すからといって、わたしたちも過ちを犯すのであろうか。わたしたちには彼らと同様に欠点がある。そして、わたしたちは彼らと同様に同情がほしいのである。わたしたちは互いに同情心を持つべきである。

「キリストの言葉を、あなたがたのうちに豊かに宿らせなさい。そして、知恵をつくして互に教えまた訓戒し、詩とさんびと霊の歌とによって、感謝して心から神をほめたたえなさい」（コロサイ 3:16）。ここにクリスチャンの特権がある。（原稿 33, 1885 年）

10月10日

黄金律によって生きる

「人をさばくな。そうすれば、自分もさばかれることがないであろう。また人を罪に定めるな。そうすれば、自分も罪に定められることがないであろう。ゆるしてやれ。そうすれば自分もゆるされるであろう。」（ルカ 6:37）

すべてのクリスチャンの義務がみ言葉の中にはっきりと述べられている、「人をさばくな。そうすれば、自分もさばかれることがないであろう。また人を罪に定めるな。そうすれば、自分も罪に定められることがないであろう。ゆるしてやれ。そうすれば自分もゆるされるであろう。与えよ。そうすれば自分にも与えられるであろう。人々は押し入れ、ゆすりいれ、あふれ出るまでに量をよくして、あなたがたのふところに入れてくれるであろう。人々にしてほしいと、あなたがたの望むことを、人々にもそのとおりにせよ」（ルカ 6:37, 38, 31）。これは大切にすべき原則である。……

神に対して自分が罪を犯したことのある人々に、悔い改めた罪人を許すのを拒ませないようにしよう。精神においても行動においても間違ったことをし、そののち悔い改めた同胞を彼らが取り扱うのとちょうど同じように、神は品性に欠陥のある人を取り扱われる。自分の同胞にあわれみを示さない人は神のあわれみによって保護されると期待することはできない。自分の感化力の及ぶ範囲内につれてこられた、救われていないすべての魂を回復しようと努力するにあたって神が命じておられる憐れみに彼自身が依存しているのである。もしも彼がこの天来の恵みを培わないなら、彼自身が自分の怠慢の結果に苦しむであろう。……

人はみな間違いを犯すということをわたしたちは覚えているべきである。たとえ長年の経験をつんだ男女でも時々間違いをする。しかし神は彼らの過ちのゆえに彼らを捨て去られることはない。過ちを犯すアダムの息子娘すべてに神は他の試みという特権をお与えになる。イエスに真に従うものは、間違いを犯している兄弟に対してキリストのような精神を表す。責める口調の代わりに「かように罪人を迷いの道から引き戻す人は、そのたましいを死から救い出し、かつ、多くの罪を覆うものであることを、知るべきである」（ヤコブ 5:20）。

教会の中で戦う人々は罪の結果からの回復がいつも必要である。ある点において他の人より勝っている人が他の点では劣っている。すべての人は誘惑にさらされており、兄弟としての同情と関心を必要としている。お互いの日々の関係の中で憐れみを培うのは、品性の完全に達する最も効果的な方法の一つである。なぜならキリストと共に歩む者だけが真に憐れみ深い者だからである。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1902 年 5 月 21 日）

10月11日

罪を犯した者への助け

「兄弟たちよ。もしもある人が罪過に陥っていることがわかったなら、霊の人であるあなたがたは、柔和な心をもって、その人を正しなさい。それと同時に、もしか自分自身も誘惑に陥ることがありはしないかと、反省しなさい。」（ガラテヤ 6:1）

神は愛であり、神は命である。贖い、再建し回復することは神の大権である。世のはじめから神の御子は死に渡されていた。そして贖いは「長き世々にわたって、隠されていた」神秘である(ローマ 16:25)。そしてまだ罪は説明することができず、その存在についての理由を見つけ出すことはできない。どの魂もカルバリーの十字架からの光の中で自分自身を罪人とみなすまでは、神がどのようなお方であるかわからない。しかしその人が大いなる必要に迫られて罪を許す救い主を叫び求めるとき、神は恵みあり、あわれみあり、怒ることおそく、いつくしみと、まことの豊かなる神としてその人に示される。キリストの働きは、失われたものを贖い、回復し、捜し求めて救うことである。もしわたしたちがキリストとつながっているなら、わたしたちもまた神性にあずかるものであり神と共なる働き人である。わたしたちは打たれ傷ついた魂と密接な関係を持つべきである。そしてもしも兄弟姉妹が過ちを犯したなら、わたしたちは破壊し滅ぼすことで敵に加わるのではなく、そのような人を柔和な精神で回復するために、キリストとともに働くべきである。

キリストのうちにあるわたしたちの希望の土台は、わたしたちが自分自身を回復と贖いの必要がある罪人であると認めることにある。なぜならわたしたちはキリストを自分の救い主であると主張する勇気を持っている罪人だからである。そうであれば、わたしたちには贖いの必要はないと他の人に言っているかのような方法で、過ちを犯した人を取り扱うことがないよう心に覚えていよう。わたしたちには過ちがないかのように公然と非難し、責め、論破しないようにしよう。治し、癒し、回復するのがキリストのみ働きである。神は愛である。……このお方は、わたしたちのもっとも弱い部分をわたしたちの敵にさらしたり、もっとも悪い部分をあらわにしてサタンに勝ち誇らせるような機会をおあたえにはならない。(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1895 年 2 月 26 日)

キリストはすべての人が手の届く範囲に救いを持ってきてくださった。……最も過ちを犯し、最も罪深いものも見捨てられることはない。このお方の労苦は、与えるために来られたその救いを、特にもっとも必要としている人々のためであった。彼らに改革が必要であればあるほどこのお方の関心は深くなり、同情が大きくなって、ますます熱心に骨折られたのであった。このお方の愛にあふれた心は、最も希望がない状態の人、このお方の一変させる恵みをもっとも必要としている人々のために深く揺り動かされた。(教会への証 5 巻 603)

10月12日

悪い報告の取り扱い

「もしあなたの兄弟が罪を犯すなら、行って、彼とふたりだけの所で忠告しなさい。もし聞いてくれたら、あなたの兄弟を得たことになる。」（マタイ 18:15）

使徒は「何よりもまず、互の愛を熱く保ちなさい」（ペテロ第一 4:8）と書いている。兄弟姉妹に逆らう報告に耳を貸してはならない。あなたは隣人に対する非難をどのように取り上げるのか非常に慎重でなければならない。告発をもたらした人に、このことに関して神の御言葉に従っているかどうかたずねなさい。キリストは何をなすべきかについて明白な指示を残しておられる。兄弟のところへ行き、その人とあなたとだけで彼の過ちについて話しなさい。告発されている人とわたし自身のあいだには個人的な不満は何もないと言って、この事柄から身をひいてはならない。キリストによって与えられた規則は非常に明確また正確であり、この言い訳は妥当ではない。

あなたと告発された人とのあいだに苦情の原因があってもなくても、キリストのご命令は同じである。あなたの兄弟は助けを必要としている。他のだれかではなく当人に、その人についての報告がかけめぐっていることを告げなさい。彼に説明する機会を与えなさい。報告が間違っていること、何か簡単な説明でその困難なことが解決することがありうる。この取り扱いが、過ちを犯していると思われているすべての人になされるべきである。（原稿 31, 1911 年）

パウロは「兄弟たちよ。もしもある人が罪過に陥っていることがわかったなら、霊の人であるあなたがたは、柔和な心をもって、その人を正しなさい。それと同時に、もしか自分自身も誘惑に陥ることがありはしないかと、反省しなさい」（ガラテヤ 6:1）と言っている。……この言葉は天の指令であって、日々実践すべきことである。もし人が過ちを犯しているなら、そのことを誰か他の人に言う代わりに、あなたが過ちに陥っていると思う人のところに行って、あなたが彼の立場であればしてほしいと思うように、やさしく敬意をもって彼の過ちについて話しなさい。もしもその人が自分の過ちを知らされないで、そのかわりに他の人々の中で推測がまかり通るなら、そしてその人の危険な状態を彼に告げることによって過ちに陥っている魂を救う努力を何もしないなら、神はこの残酷な働きをする人々をどのようにご覧になるだろうか。

神は「義人はいない、ひとりもいない」（ローマ 3:10）と宣言される。すべての人は間違いを犯しやすい。だれも完全ではない。主イエスは罪を犯した人がゆるしを受けられるようにと死なれた。責めるのはわたしたちの仕事ではない。キリストは責めるためではなく救うために来られた。（原稿 31, 1911 年）

10月13日

燃えるような愛を持つ

「何よりもまず、互の愛を熱く保ちなさい。愛は多くの罪をおおうものである。」(ペテロ第一 4:8)

キリストに従う者は安っぽく利己的な性格を見せるのではなく、言葉や精神また行動においてキリストの優しさを表す。……横柄で高圧的な精神は神の精神ではないので、信者に対しても未信者に対しても表すべきではなく、控えめが彼らの持ち味である。クリスチャンは、キリストがその尊い命を与えてくださった人々を取り扱うにあたって、このお方を代表するよう命じられている。……

キリストを絶えず眺めている人はその精神において、言葉においてまた行動方針においてキリストを表す。彼はだれにも圧力をかけず、試練を受けている魂をもっと強い誘惑に突き落としたり、無関心にサタンの戦場に残しておいたりはしない。そのような魂を上に引き上げ、天のほうへ引き上げようと努めて助けの手をさしのべる。彼は神の協労者として、誘惑を受けている人々の足が永遠の岩にしっかりと根ざすよう気をつける。……

キリストの許しの愛に制限はない。……危険に陥っている人々に、わたしたちが彼らの価値を認め、彼らをあきらめるつもりはないことを理解させねばならない。彼らに話かけ、彼らと祈り、彼らに愛をもって忠告しなさい。……聖書の宗教はまじめにキリストを信じているすべての人の行為を導く。聖書が日々の生活上の振る舞いでわたしたちを導かなければならない。わたしたちはキリストに従うものであると公言することはできるが、もしこのお方のみ言葉を行う者でなければ偽のコインのようなものである。正しい響きがない。わたしたちはみな人類家族の一員である。わたしたちは神に、このお方を愛し、わたしたちの行状と言葉でこのお方に対する愛情を表す義務がある。わたしたちは、人類家族の一人一人に対して肌が黒かろうと白かろうと、身分が高かろうと低かろうと、人を親切に扱い、その魂に対する関心を示す義務がある。一つの家族のメンバーとしてわたしたちはみな兄弟である。……

神の子らは天の市民である。彼らは神の御子に買い取られた者、このお方の血で買われた家族である。すべての魂がこのお方の目に尊く、純金よりもオフルの金よりも尊い。(手紙 16 a, 1895 年)

10月14日

弱い者のための力

「目をさましていて、死にかけている残りの者たちを力づけなさい。わたしは、あなたのわざが、わたしの神のみまえに完全であるとは見ていない。」(黙示録3:2)

霊的に死にかけている人がたくさん居るので、神はわたしたちに、彼らを力づけるようにと呼びかけておられる。神の民はクリスチャンの親睦の絆で固く結ばれているべきであり、自分たちに委ねられた尊い真理についてたびたび互いに語りあうことによって信仰を強めるべきである。……

目的を持って熱心に求めるすべての者のために霊的な力がある。この人々は神聖にあずかる者となる。なぜなら彼らは神と協力するからである。正しく用いることによって増し加わる感化力が彼らに与えられる。神の御旨を行いたいとの願いに比例して増し加わる力が与えられる。……

御父は、親が子供に良い贈り物を与えようとする以上に、ご自分に求める者に聖霊を与えたいと思っておられるとイエスは宣言される。聖霊は人のあらゆる必要を理解する。聖霊は熱心に飢え乾いて求める者にそれを与えられる。神が与えるために持っておられる祝福は限りがない。わたしたちにはその高さ、深さそしてその広さを理解することができない。全天は、自分が知恵に不足していることに気づいて、直接知恵の源のところへ来る者の要求に従う準備ができている。そのような人々に対して神はとがめもせず惜しみなくお与えになる。しかし彼らに揺れ動くことのない信仰をもって求めさせなさい。……上からの知恵を受ける者は、約束を堅くつかみ、自分の必要を感じ、脇へそれない人である。……「しかし、サルデスにはその衣を汚さない人が、数人いる。彼らは白い衣を着て、わたしと共に歩みを続けるであろう。彼らは、それにふさわしい者である」(黙示録3:4)。彼らの信仰のゆえにこの名誉が彼らに与えられた。彼らはこの世では自慢をせず、むなしいことに心を向けなかった。純粋で聖なる信仰をもって熱心な願いを持ち、彼らは永遠の富の約束をつかんだ。彼らの願いはキリストのようになることであった。彼らは高く掲げられた義の標準を保ちつづけた。栄光の永遠の重みが彼らに与えられる。なぜなら彼らは世からのしみに染まらず、キリストの義を同胞に示しつつ、この地上で神とともに歩いたからである。(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1905年8月10日)

10月15日

失望している人への助けの手

「わたしの兄弟たちよ。あなたがたのうち、真理の道から踏み迷う者があり、だれかが彼を引きもどすなら、かように罪人を迷いの道から引きもどす人は、そのたましいを死から救い出し、かつ、多くの罪をおおうものであることを、知るべきである。」（ヤコブ 5:19, 20）

過ちを犯し、恥とおろかさを感じている人がたくさん居る。彼らはほとんど自暴自棄になってしまうまで自分の失敗や過ちを見てしまう。わたしたちはこれらの魂を否定すべきではない。人が流れに逆らって泳がなければならないとき、彼を押し流そうとする流れの力がすべてそこにある。沈んで行くペテロに兄であられるお方の手が差し伸べられたように、そのときその人に救いの手を差し伸べよう。彼に希望にみちた言葉を語りなさい。……

あなたの霊的に病気の兄弟は、あなた自身が兄弟の愛を必要としているのと同じくあなたの愛を必要としている。彼は自分と同じように弱かった人、自分に同情し助けてくれる人の経験を必要としている。わたしたち自身の弱さを知っていることが、他の人を必要なときに助けるその助けとなるべきである。わたしたち自身が神から受けている慰めをその人に分け与えようとしないで、苦しんでいる魂のそばを決して通り過ぎるべきではない。

思いと心と魂が低い性質に打ち勝つことができるのは、キリストとの親しい交わり、生きておられる救い主との個人的な接触である。さまよっている人に、彼を支えてくださる全能の手、彼をあわれまれるキリストのうちにある永遠の人性について語りなさい。彼にとって、律法と強制力、憐れみがなく、助けを求める声を聞こうとしないものを信じるだけでは充分ではない。彼は暖かい手をつかみ、やさしさに満ち溢れた心を信頼する必要がある。いつも自分のそばに神の存在があるという思いを彼の心に持たせ続けなさい。いつもあわれみ深い愛をもって彼を見守り続けなさい。絶えず罪を深く悲しまれる御父の心、それでもまっすぐ伸ばしておられる御父の手について、「わたしの保護にたよって、わたしと和らぎをなせ、わたしと和らぎをなせ」（イザヤ 27:5）といわれる御父の声について考えるようにと彼に命じなさい。

あなたがこの働きに携わるとき、あなたには人の目には見えない同行者がいる。傷ついた旅人の世話をしたサマリヤ人のそばに天のみ使いがいた。天の宮廷からの天使は、自分の同胞に仕えるにあたって神の奉仕を行うすべての者のそばに立つ。そしてあなたはキリストご自身の協力を得る。キリストは回復者であられ、あなたがこのお方の指揮の下で働くときあなたは大いなる結果を見るであろう。（原稿 126, 1907 年）

10月16日

すべての人に対して謙虚

「最後に言う。あなたがたは皆、心をひとつにし、同情し合い、兄弟愛をもち、あわれみ深くあり、謙虚でありなさい。」（ペテロ第一 3:8）

「謙虚でありなさい」は聖書の命令である。 わたしたちはみな固有の気質を持っている。ある人はすぐカッとし、ある人は気難しくなる傾向があり、ある人は頑固、他の人は粗野で荒々しく思いやりのない言葉を出す。それゆえわたしたちは自分の気質を強化し、自分自身を抑制しなければならない。……あなたの気性の無情なところは何であっても和らげ、あなたの品性のざらざらした縁をこすって磨きなさい。

どのようなときも不機嫌であったり、無情であったりしてはならない。どんなにそうしたくなっても、あなたはしかめつらやさげすみの表情を避けなさい。あなたは礼儀正しく謙虚にすることによって尊敬を勝ち取るべきである。すべての人に礼儀正しくしなさい。彼らはキリストの血で買われているのである。もしもあなたが自分の品性においてキリストを手本にしようと努めるなら、人々への印象はあなたが与えるのではなく、あなたのすぐそばに立っている神の御使いたちによって与えられる。天使たちはあなたが語りかける人々の心を動かす。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1887年4月26日）

聖天使の仲間になりたいと希望する人々は上品な物腰であるべきである。クリスチャン宗教の原則が日々の生活で実行されていれば他のひとへの親切な思慮深さがあるであろう。なぜならこれがキリストの特性だからである。したがって、たとえ人は貧しくても真の気品を持つ。なぜなら彼は神の貴族であるから。

キリスト教は人を紳士にする。わたしたちはキリストの血で買われた者であるから、このお方を代表し、お手本にして行動すべきである。そしてこのお方はご自分の迫害者にさえ謙遜であられた。イエスに真に従うものは、自分の主人の生涯を特徴づけたのと同じ穏やかな自己犠牲の精神を表す。支配者の前へ連れてこられたときのパウロを見なさい。アグリッパの前での彼の言葉つきは説得力のある雄弁さと同時に品位のある謙虚さの見本である。わたしは世の風潮である真の礼儀正しさを欠いた形式的な丁寧さは奨励しないが、本当の親切な気持ちから湧き上がる丁寧さは推奨する。（同上 1884年4月29日）

父祖や使徒の模範よりももっと偉大な模範がキリストにあってわたしたちに与えられている。わたしたちはここに例を挙げて説明されたまことの謙虚さを見る。この徳は、その生涯を和らげられ、精錬された麗しさで包み、あらゆる行動に光沢を与えつつ、キリストの生涯と平行して進んだ。（同上 1885年9月8日）

10月17日

虐げられたものを解放

「わしがその巣のひなを呼び起し、その子の上に舞いかけり、その羽をひろげて彼らをのせ、そのつばさの上にこれを負うように、主はただひとりで彼を導かれて、ほかの神々はあずからなかった。」（申命記 32:11, 12）

救いの将は、科学の欺瞞によってではなく、人格を備えた神の御言葉への本当の信仰でご自分に従うものを力づけられる。この聖句はより深い確信を伴った力を持って何度も何度も繰り返されている。サタンは、近づく終わりの戦いにおける攻撃に全力を注ぐので、神に従う者の忍耐は極限にまで達する。時々彼は屈しなければならないかのように思える。しかし主イエスへの祈りの言葉が神の御座へ矢のように上ると、神の御使いが戦場へ送られる。形勢が変わる。イエス・キリストの顔に輝く驚くべき御光が難癖をつけている敵の口を閉ざす。悩まされていた信じる魂はわしの翼の上にいるように勇気づけられ勝利が得られる。

神は御自分の民が厳しい闘争の状況のために準備をするよう呼びかけておられる。あなたの義務を柔和なへりくだった精神で取り上げなさい。いつもイエスの力のうちに敵に立ち向かいなさい。あらゆる義務を忠実に果たしなさい。あなたは今、日毎の改心とへりくだりによって、すべての力を持ち、あなたが滅びるままに捨て置かれることのないお方に、つぶやくことのない信頼を置かねばならないことを認識しなさい。あなたはキリストを個人的経験によって知ることができる。……この終わりの時代の試練の中で、キリストは御自分の民にとって知恵と義と清めと贖いになられるであろう。……彼らは世を納得させる力となる経験を発達させなければならない。……

キリストの充分な恵みに絶えずより頼む結果として、わたしたちは何とすばらしい教訓を学ぶのだろう。これらの教訓を学んでいる人は他の人の経験に頼る必要はない。彼は自分自身に証を持っており、彼の経験はキリストがすべてに充分な、忠実で力強いお方であるという実際の知識である。彼は「わたしの恵みはあなたに対して十分である」（コリント第二 12:9）という約束を現実のものとしている「あなたがたを耐えられないような試錬に会わせることはない」（コリント第一 10:13）。（原稿 53, 1905 年）

10月18日

小羊に従う者

「小羊の行く所へは、どこへでもついて行く。彼らは、神と小羊とにささげられる初穂として、人間の中からあがなわれた者である。彼らの口には偽りがなく、彼らは傷のない者であった。」（黙示録 14:4, 5）

主はこの地上に、小羊の行く所へはどこへでもついていく民を持っておられる。このお方にはバアルに膝まずいたことのない何千もの民がいる。そのような人はこのお方と共にシオンの山に立つ。しかし彼らはこの地上で武具を身につけ、まさに滅びようとしている人々を救う働きに携わる準備ができていなければならない。……

わたしたちはキリストに従うために移されるまで待つ必要はない。神の民はこの地上でこれをすることができる。わたしたちが地上で神の小羊に従う場合だけ、天の宮廷でこのお方に従う。……わたしたちは自分に有利なときだけ気まぐれに都合に合わせて従うべきではない。このお方に従うことを選ばなければならない。日々の生活の中で羊飼いに従う群れのように、このお方の模範に従わなければならない。わたしたちはこのお方のために耐え忍ぶことにより一歩ごとに「彼がわたしを殺しても、なおわたしは彼を信頼する」（ヨブ 13:15 英語訳）と言いながら従わなければならない。このお方が生涯実行されたことをわたしたちも実行しなければならない。そしてわたしたちがこのようにしてキリストのようになりたいと努め、自分の意志をこのお方の意志に一致させようと努める時、わたしたちはこのお方を表す。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1898 年 4 月 12 日）

わたしたちは何もしない夢の国にいるのではない。わたしたちはキリストの兵士であり、わたしたちを贖ってくださったお方に忠誠を示す働きに入隊している。わたしたちが救われたとき、永遠に救われたときに、わたしたちが天の家郷でどのような者であるかは、今、品性と聖なる奉仕においてどのような者であるかを映したすがたである。わたしたちはここで、すなわち恩恵期間を与えられている場所で神の戒めを守ることによって忠誠を示さないのだろうか。……

わたしたちは揺るぎのない忠誠心をもってキリストに従い、このお方の完全な従順と純潔また自己犠牲の人生を自分のものとし、眺めることによってこのお方の形に変えられるということを常に念頭においているだろうか。わたしたちはこのお方の忠誠に倣おうと努力しているだろうか。もしもわたしたちが「あなた様がわたしの模範となってください」と言って自分自身を教育するなら、もしも信仰の目をもってこのお方を生ける救い主として見るなら、将来の生活でこのお方に従う者となる。わたしたちは目と心でこのお方の権威に対する証を担うことができる。なぜならわたしたちは信仰によって聖なる山にこのお方とともにいるからである。（同上）

10月19日

あなたの高い召しを いつも覚えていなさい

「それだから、あなたがたは既にこれらのことを知っており、また、いま持っている真理に堅く立ってはいるが、わたしは、これらのことをいつも、あなたがたに思い起させたいのである。」（ペテロ第二 1:12）

わたしたちが人生の果てしない道のりでどれほど長く旅をするかにかかわらず、わたしたちに対する天父の慈悲をたびたび数えなおし、このお方のみ言葉の約束から希望と勇気を集める必要がある。……ペテロはクリスチャン生活の中でたえまない警戒の価値に気がついて、信者に日々の生活で注意深さを、おおいに訓練することの重要性を力説することを聖霊に強いられていると感じた。……

「いつも思い起こし」。ああ、もしわたしたちが自分の永遠の幸福に関係のあるそれらのことを心に留めてさえいるなら、愚行にかかわったり、くだらない話に加わったりすべきではないのだが。生涯の働きがわたしたちの前にある。神の聖なる御言葉の中に含まれているはっきりとした教えに聞き従うことによって、わたしたちの召しと選びを確かなものにするために勤勉であることはわたしたちのためである。……

わたしたちの信心深い会話によって、悪を行う人々に対する効果的な譴責となる。良い行いの模範を与えることができるときに、気づかないで見過ごすあやまちが多くある。悪事を承認するように思えることをわたしたちの模範によって与えてはならない。勝ち取るべき天国と避けるべき地獄がある。信者の多い教会に……標準を下げるという特別な危険がある。多くの人が共に集まるところでは、孤立してひとりで立つことになる人に比べて不注意や無関心になっていきがちである。しかし不都合な状況の下でさえも見守って祈り、正義のための力強い証となる信心深い会話で模範を示すことができる。……わたしたちはクリスチャンの道で仲間の巡礼を失望させる言葉を語ることはできない。キリストは、わたしたちがご自分と栄光のうちに住むことができるために命を与えてくださった。永遠を通じてこのお方は、カルバリーの十字架に釘付けられた残酷な釘の痕をご自分の手に帯びておられる。……

わたしたちは今将来の永遠の命のために整えられている。 そしてまもなく忠実であれば、真理を守った国民が永遠の嗣業を受けるために入ることのできる神の都の門が、輝く蝶番を開け放つのをみるであろう。（原稿 23, 1910 年）

10月20日

自己否定を通じて、キリストのように

「それからイエスは弟子たちに言われた、『だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい』。」（マタイ 16:24）

説教するのに最も難しく、実行するのにもっとも困難なことは自己否定である。欲深い罪人である自己は、利己的な目的に金銭を投資するために、行うことはできても行わない善に対して戸を閉ざす。わたしたちは大いなることをする機会は一度もないかもしれない。崇高な犠牲を払うようには要求されないかもしれない。しかしわたしたちが得ることのできるもっとも偉大な勝利はイエスに従うことである。……キリストがこの世で生きられた毎日はこのお方にとって自己否定の日々であった。もしも自己否定の険しい道を歩まれたキリストに従いたいなら……この否定を日々の出来事やわたしたちの生涯の行動の中に持ち込まなければならない。……

世の方針は、得られる金銭や有利なことをどのような方法であっても獲得することである。この世の宝を蓄積することが名利を追う人の野望である。わたしたちの主イエス・キリストに従う者の目標と目的は自己否定と自己犠牲によってキリストのようになることである。彼らは天の宝のために地上の宝を断念することによって得ることのできる永遠の富に目をすえている。ここに次のような条件がある。わたしの弟子になりたいと思う人はすべてを捨て、わたしに従ってきなさい。キリストに目を留め、このお方が導かれる道に従いなさい。……

「受けるよりは与える方が、さいわいである」（使徒行伝 20:35）。……自己否定は神の御働きを進めるために必要な資産を神の蔵に入れる。このようにしてわたしたちはキリストと共同で行動することができる。キリストに従う者は主にこのお方のものを返すことで自分が祝福を受けていると考える。なぜなら彼らは天の宝を積み上げており、その宝は彼らが「良い忠実な僕よ、よくやった。……主人の喜びに入れ」（マタイ 25:23）と言う御声を聞くとき、彼らに与えられるのである。その喜びはどのようなものであろうか「彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである」（ヘブル 12:2）。贖われた魂、永遠に救われた魂を見る喜びは、「わたしについてきなさい」と仰せになったお方のみ足の跡に、自分の足を置くための障害物に打ち 勝った人々の特権である。（手紙 52, 1897 年）

10月21日

富という危険物

「イエスは更に言われた、『子たちよ、神の国にはいるのは、なんとむずかしいことであろう。富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい。」（マルコ 10:24, 25）

富が適切に用いられ、貧しい人や神の御働きを進めるために分配されるべきであることが神の御計画である。もし人が同胞よりも、また神とそのみ言葉を愛するよりも自分の富を愛するなら、もしも彼らの心が自分の富に執着しているなら、彼らは永遠の命を持つことはできない。……ここで魂が試される。そして金持ちの青年のように多くの人が悲しみながら去っていく。なぜなら彼らは自分の富を持ち、天にも宝を持つことはできないからである。……

「神はなんでもできる」（マルコ 10:27）。……神の御霊によって心に送り返された真理は富への愛を押し出す。イエスへの愛と金銭への愛は同じ心に同居できない。神への愛が金銭への愛に勝るなら、所有者は自分の富と袂を分かち、愛情を神へと移す。愛を通して彼は貧困者の欠乏に、また神の御働きを支えるために奉仕するよう導かれる。自分のもっている主の財産を正しく処分することが彼の最高の喜びとなる。彼は自分の持ち物すべてを自分のものではないかのように所有し、神の執事として忠実に自分の義務を果たす。……この方法によって金持ちが神の国に入るのが可能である。……

ある人は豊かに与えるが欠乏を感じない。彼らはキリストのみ働きのために自己否定を実践しない。彼らは惜しみなく与えるが心が望むすべてのものをまだ持っている。神はそれに注意を払われる。行動と動機がこのお方によって厳しく採点され、彼らは自分の報酬を失う。

しかし財産の少ない人が他の人と同じようにできないからといって、言い訳をしてはならない。あなたのできることをしなさい。なくても行うことのできる何かを自制し、神の御働きのために犠牲を払いなさい。貧しい寡婦のようにあなたのレプタ二枚を投げ入れなさい。あなたはじっさい豊富な中から与えるすべての人以上に与えているのである。そしてあなたは自己を否定し、貧しい人に与え、真理のために犠牲を払い、天に宝を積むことがどれほど気持ちの良いものかを知るであろう。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1884 年 9 月 16 日）

10月22日

神の優先権

「あなたは心のうちに『自分の力と自分の手の働きで、わたしはこの富を得た』と言ってはならない。あなたはあなたの神、主を覚えなければならない。主はあなたの先祖たちに誓われた契約を今日のように行うために、あなたに富を得る力を与えられるからである。」（申命記 8:17，18）

この上なく神を愛する人々は神が彼らにお与えになる財産で計算を越えて富んでいることに気づくであろう。……人は自分に独占的な権利がある物は何も持っていない。自分自身さえ自分のものではないのである。なぜなら彼は値をもって、神の御子の血をもって買われているのである。キリストはこの世界にあるすべてに所有権を主張される。年々増えて行った利益を押し流す一連の状況をもたらすことがおできになる。このお方はまたご自分の子らのために必要な助けを呼びかけることもおできになる。……

人に命の息をお与えになるのは神である。わたしたちは創造することはできない。神が創造されたものを集めることができるだけである。神はわたしたちの守護者、カウンセラーである。そしてそれ以上に、このお方の豊かな供給によってわたしたちは自分の持っているすべての技術や機転、また能力を引き出す。……あなたが持っているすべての物は神の賜物である。なぜならあなたはそれを造り出したり、買うことのできる物を何も持っていなかったからである。それは、あなたが神から離れるためのくさびとなるためではなく、あなたが神の奉仕をする助けとなるためにあなたに与えられたのである。

人が、自分の能力と財力が主のものであるという事実を見失う瞬間、その瞬間彼は主の財産を横領している。彼は、主にご自分の財産をもっと忠実な者の手にゆだねるようにさせる不忠実な執事の役を果たしている。神はご自分の財産を委ねた者たちに、彼らが罪人の救いのために働いていることを世に示すため、それを忠実に扱うよう命じておられる。このお方はご自分の指揮の下にいると公言する人々が品性においてご自分を誤り伝えることのないよう命じておられる。……神は日々わたしたちに恩恵を与えてくださっている。……このお方がわたしたちに与えてくださった豊かな物を他の人に分け与えることによってこのお方に栄光を帰そう。

ああ、愛、聖なる神聖な無我の愛のために！主の代理者として、利己心を表すことによって救い主を誤り伝えることが、どれほど恐ろしいことであるかに気がつこうではないか。神はご自分の息子娘たちが、神は利己的ではなく、物惜しみしない無我の計画に富んでおられることを世に示すようにと命じておられる。このお方はご自分の愛の富を伝える管を待っておられる。（原稿 63，1901 年）

10月23日

み働きを支えるための神のご計画

「物惜しみしない者は富み、人を潤す者は自分も潤される。」（箴言 11:25）

主は福音の宣布を、御自分の民から捧げられた能力と自発的なささげ物また献金に依存するものとしてこられた。このお方は御言葉を説教するようにと人を召されると同時に、それを支えるために自分たちの財産を提供することによってその働きにあずかることを、教会全体の特権とされた。そしてまた御自分を代表するものとして、彼らに貧しい人々の世話をするようにと命じてこられた。わたしたちの全収入の十分の一は、主がご自分の物として、福音を説くために自らをささげる人々を支えるためだけに充てるべきであると要求しておられる。またこれに加えて、主は、御自分のみ働きのために、また貧しい人々の必要を支えるためにわたしたちにささげ物と献金を求めておられる。……

主はたえず人に御自分の祝福と恵みを与えておられる。主がこれらの賜物を差し控えられたなら、わたしたちは滅んでしまう。このお方は毎瞬間、御自分の人類家族を視野に入れておられる。「天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らして下さるからである」（マタイ 5:45）。このお方は わたしたちに「実りの季節を与え、食物と喜びとで、あなたがたの心を満たす」というみ言葉を与えておられる（使徒行伝 14:17）。人が富を得る力をお与えになるのは神である。鋭敏な思いや、計画したり実行したりする能力はこのお方から来る。健康をもってわたしたちを祝福し、自分の能力を勤勉に用いて財産を得るようにと道をひらいて下さるのはこのお方である。だからこのお方は「あなたが得ることができるようにとわたしが与えた金銭の一部は、わたしのものである。わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。世界にわたしの恵みの福音を述べ伝える人々を支えるもの となることができるから」とわたしたちに仰せになる。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1893 年 5 月 9 日）

神は人の協力なしに世界で御自分のみ働きを推進し、貧しい者のために備えられても良いのである。このお方は、わたしたちの奉仕とささげ物を求められるが、それはわたしたちがこのお方と自分の同胞に対する愛をこのようにして表すことができるだけでなく、他の人の善のための奉仕と犠牲は、与える者の心にある善行の精神を強め、このお方の貧しさによってわたしたちが富む者となるために、富んでおられたのに、わたしたちのために貧しくなられたお方にもっと近く結びつかせるからである。そしてわたしたちがこのようにして救い主の模範に従うときにのみ、わたしたちの品性はこのお方に似たものとなっていくのである。（同上）

10月24日

与えるための聖書の法則

「あなたの神、主が賜わる祝福にしたがい、おのおの力に応じて、ささげ物をしなければならない。」（申命記 16:17）

キリストの恵みが心に植えつける愛と自己犠牲の精神の美しい描写が、マケドニヤのクリスチャンの経験に表されている。 使徒パウロは彼らについて「彼らは、患難のために激しい試練をうけたが、その満ちあふれる喜びは、極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て惜しみなく施す富となったのである。……すなわち、自ら進んで、聖徒たちへの奉仕に加わる恵みにあずかりたいと、わたしたちに熱心に願い出て、わたしたちの希望どおりにしたばかりか、自分自身をまず、神のみこころにしたがって、主にささげ、また、わたしたちにもささげたのである」と記している（コリント第二 8:2 － 5）。そしてキリストの精神がとどまるところではどこでも同じ実が現れる。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1893 年 5 月 9 日）

什一とささげ物についての聖書の制度の中で、種々の人から捧げられた総額は、それらが収入に応じている限り、非常に多様になる。貧しい人からの什一は比較的小額でありその人のささげ物はその能力による。しかしそのささげ物を神に受け入れられるものにするのは、ささげ物の多さではない。それはささげ物があらわす心の目的、感謝と愛の精神である。貧しい人に、自分のささげ物はあまりに少しなので注目に価しないと感じさせてはならない。彼らに自分の能力に応じて捧げさせ、自分は神の僕であり、神が彼らのささげ物を受け入れられると感じさせなさい。

神が多くの資産を委ねられた人は、もしもその人が神を愛し畏れる人であるなら、神のご要求にしたがって啓発された良心の命令に応ずることを、重荷だとは考えない。金持ちは利己心と貪欲にふけり、主ご自身のものをお返ししないという誘惑にさらされる。しかし神のみ旨に真実な者は、誘惑されたとき、サタンに「こう書いてある」、「人は神の物を盗むことをするだろうか」と答えるのである。……

永遠の現実を視野に入れている人々、心をつくし、精神をつくし、力をつくして主を愛し、自分自身を愛するように隣人を愛する人々は、あたかもカーテンが巻き上げられて、自分たちが全天の視界の下で働いているのを見ることができるかのように、自分の義務を良心的に行う。……キリストの精神を……持っている人々はみな心から即座に自分たちのささげ物を神の蔵に押し込むのである。（同上 5 月 16 日）

10月25日

天とあなたの勘定を清算しなさい

「ただで受けたのだから、ただで与えるがよい。」（マタ 10:8）

イエスはあなたのために命を与えてくださった。自分の親に完全に信頼し、利用されたり、虐待されたりする恐れなどない子供のように、あなたは、神があなたにとって友となり、助けとなってくださることを完全に確信して、このお方に安んじることができる。……

あなたは神からすべての祝福を期待しながら、何もお返ししないことがあってはならない。キリストを通してわたしたちは万物を所有している。キリストなしには、わたしたちには、貧困、悲惨、そして絶望以外は何もない。わたしたちは、イエスが自分たちに与えてくださったこの愛に応えるであろうか。神の息子になるということは、万物を所有することである。あなたはこれ以上何を欲することができるであろう。もし、クリスチャンがそのような嗣業に満足しないとすれば、何物も彼に満足を与えることはできない。わたしたちは主に対して、自分たちの所有しているすべのものについて恩義がある。であるから、わたしたちは、与え主に、このお方がご自分のものであると主張なさるものをすべてお返ししよう。神に対して盗みを働いてはならない。……

祝福の王国から、そしてご自分の王座から来られて、自分の神性を人性で覆うためにへりくだられるまでに、人を愛してくださったお方は、わたしたちに、ご自分の愛とご自分が人の上においておられる価値の、疑う余地のないしるしを与えてくださった。わたしたちのためにこのような無限の犠牲を払ってくださったお方は、わたしたちに魂の価値を測り、地上の利益と天の損失を、この世の成功と永遠の破産とを秤で計ってみるようにと呼び求めておられる。……

キリストは地上から天に向かうようあなたに指し示しておられる。このお方は、あなたの宝を天に蓄えるようにと招いておられる。……あなたは神に自分の捧げ物を差し出すときに、主よ、これはあなたご自身のものです、わたしたちはあなたに惜しみなく捧げます、と言うであろうか。……あなたが与えることのできる財産すべてをもってしても救いを買うことはできない。あなたは、自分自身をささげなければならない。自分自身を救い主の要求と感化力に明け渡すことによって、あなたの生涯は、美しいぶどうの木の実り豊かな枝のようになる。御霊の実がそれを飾るのである。豊かな恵みの房が数々表れ、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、そして柔和などがそれを魅力のあるものとするのである。……

わたしはあなたが天に入る前に、地上におけるこのお方の働きを前進させるために主の財産を用いることによって、あなたの宝を天に送るようにと切望する。……あなたの勘定を高い天と清算しなさい。（手紙 65, 1884 年）

10月26日

「神のみ前にとどいて、おぼえられている」

「あなたの祈や施しは神のみ前にとどいて、おぼえられている。」（使徒行伝10:4）

どの人にとっても、この世の生涯において、百卒長のように神に賞賛されるとは、すばらしい恩寵である。そして、この是認の礎となっていたものは何であろうか。「あなたの祈や施しは神のみ前にとどいて、おぼえられている」。

祈りにも施しをすることにもそれ自体に、罪人を神に推奨するものは何もない。キリストの贖罪の犠牲によるこのお方の恵みだけが、心を新たにし、わたしたちの奉仕を神に受け入れられるものとするのである。この恵みが百卒長の心を動かしたのであった。キリストの霊が彼の魂に語られた。イエスが彼を引き寄せられ、そして彼はこの引き寄せる力に服したのであった。彼の祈りと捧げ物は、彼がせき立てられたり、強要されたりしたものではなかった。それらは彼が天を獲得するために支払おうとしていた代価ではなかった。そうではなく、それらは神への愛と感謝の実なのであった。

このような真心からの祈りは、主のみ前に香のように上る。そして、このお方の働きに捧げる献金と貧しい者や苦しんでいる者への贈り物は、このお方をとても喜ばせる犠牲なのである。こうして、使徒パウロがローマで囚人であったとき、その必要に奉仕したピリピの兄弟たちの贈り物は「かんばしいかおりであり、神の喜んで受けて下さる供え物」だといわれている（ピリピ4:18）。

祈りと捧げ物とは共に密接に関連している。それらは神への、またわたしたちの人間同胞への愛の表現である。それらは神の律法の二つの大原則が外に働いたものである。「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして主なるあなたの神を愛せよ』。第二はこれである、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これより大きないましめは、ほかにない」（マルコ12:30, 31）。このように、わたしたちの賜物がわたしたちを神に推奨したり、またこのお方の恩寵を獲得するのではなく、それらはわたしたちがキリストの恵みを受けたという証拠なのである。それらはわたしたちの愛の告白の誠実さを試す試金石である。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1893年5月9日）

愛によって促された自己否定の実である捧げ物は、神が百卒長に語られた言葉によって表されている。[使徒行伝10:4引用]。……そのような記念、すなわち、神のみ前にその人のために語り、わたしたちの名を天の聖所に生き生きと香り高く保ち続ける声のような行為を望まない者があるであろうか。（同上5月16日）

10月27日

あなたの愛情はどこにあるか

「このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである。あなたがたは上にあるものを思うべきであって、地上のものに心を引かれてはならない。」(コロサイ 3:1, 2)

わたしたちは、この地上の事柄に関して高い期待を抱いても、失望にあうことであろう。わたしたちは、それらが消えていくのをみるであろう。しかし、ここに「あなたがたのために天にたくわえてある、朽ちず汚れず、しぼむことのない資産」がある(ペテロ第一 1:4)。わたしたちは自分たちの思いを、使うと無くなってしまう物にではなく、永続する事柄に留めたいのである。

キリストがこの世に来られたとき、このお方は、人間が将来、すなわち永遠の命を自分たちの見積もりから度外視してしまっているのをご覧になった。このお方は、その命をわたしたちの前に提示し、それを眺めることによって、この地上の事柄に対するわたしたちの関係を変えるように導かれ、また、わたしたちの愛情があまりにも早く過ぎ去ってしまう地上のものに引かれるのではなく、上にあるものにおかれるために来られたのである。サタンがわたしたちの魂と神との間に介入させてきた影を、キリストは押し返そうとして下さる。それは、神と永遠に対する見解が明らかになるためである。このお方はこの世を軽蔑なさることはないが、それをしかるべき従属的な立場におかれる。そしてそれから、このお方は永遠の事柄を、その相対的な重要性のうちにわたしたちの前におかれる。それは、わたしたちが信仰の目を見えない物に留めることができるためである。一時的な利益を持つ事柄には、思想と愛情を夢中にさせる力がある。そして絶えず自分たちの思いを永遠の利益を持つ事柄にとどめるよう教育し、訓練することが重要である。これはわたしたちを不幸にするであろうか。それは、ここで困難をもたらすであろうか。否、そうではない。……ますます多くの神の御霊とますます多くのこのお方の恵みがわたしたちの日常の経験に持ち込まれ、不和が少なくなり、もっと幸福が増し、そしてわたしたちは他人にもっと与えるようになる。(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1892 年 3 月 8 日)

神は、永遠がわたしたちを圧倒し、この地上の義務に不適任な者とすることを意図してはおられない。そして、もしわたしたちが自分たちの思いを永遠の主題にとどめて、それらを日常の義務と混ぜ合わせるのを習慣とするならば、決してそうはならないのである。永遠の現実を熟考することが、わたしたちをこの世の生涯の義務の失格者とすることはない。すべての有益な仕事と生涯の活動が聖なる約束の虹のかかったものとして、わたしたちに表されるべきである。(同上 1897 年 2 月 2 日)

10月28日

世を超越して生きる

「わたしたちは、見えるものにではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである。」（コリント第二 4:18）

キリストはご自分の教えの中で、天と地の要求を正しい位置関係におこうと努められた。……このお方は、人間が世に対して過度な愛情を抱く危険があるのをご覧になった。神の愛が、世の愛に取って代わられるのである。神の全能の力だけが、この愛を取り除くことができる。地上のまた一時的な事柄によって得られる優位性など永遠の現実に比較すればほんの一原子にしか過ぎないのであるが、それらが人々を神から引き離す。……天の魅力や、朽ちない富、平安、魂の高潔さに背を向けて、人は自分の愛情を無価値で満足を与えることのないものに注ぎ足す。そして、絶えずこの世を眺めることによって、その人はそれに一致していくのである。彼の思いは高められる能力を持ち、聖徒の永遠の至福をつかむ特権が与えられているのであるが、偉大な永遠に背を向けて、思いの力が奴隷のように世界の一原子につながれるのを許してしまう。世の事柄への忠誠によって、思いは辱められ、矮小化されてしまう。

イエスはこの物事の順序を変え、この広く蔓延した悪を正すために来られた。このお方は、警告と譴責と嘆願のうちに神の声としてご自分の声を上げられ、人を夢中にさせ、奴隷化し、わなにかけている呪文を打ち破ろうとしておられる。このお方は……「たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか」と仰せになる（マタイ 16:26）。

神はわたしたちが世を超越するようにと望んでおられる。世の贖い主であられるイエスは、わたしたちの前に永遠の嗣業、不死の富を提示なさる。……このお方は、世をそのおごった至上的地位から取り除いて、それをあるべき位置、すなわち霊的なとこしえの世界に従属した立場におかれる。……

キリストは世のためにご自身を犠牲になさった。このお方は喜んで、背教した世のための贖い代としてご自身の命を与えてくださった。そして、このお方は利己心や世俗がこのお方に従う者たちの心に存在するようにと意図されたのではない。世に一致することは神のみ言葉の中にはっきりと禁じられている。……神の選ばれた者たちは、このお方が彼らにこうあるべきだと仰せになったとおりのもの、そして使徒が彼らは「全世界に、天使にも人々にも見せ物」であると宣言したとおりのものとならなければならない（コリント第一 4:9）。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1897年2月2日）

教会と世

「すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇は、父から出たものではなく、世から出たものである。世と世の欲とは過ぎ去る。しかし、神の御旨を行う者は、永遠にながらえる。」（ヨハネ第一 2:16, 17）

神のみ言葉を信じると公言している多くの者は、敵の欺瞞の働きを理解していないように見える。彼らは、時の終わりが近いことを悟っていないが、サタンはそれを知っている。 そして、人が寝ている間に、彼は働くのである。肉の欲、目の欲、そして持ち物の誇りが男女を支配している。サタンは、神の民の間でさえ、分裂を生じさせるために働いている。利己心、堕落、そしてあらゆる種類の悪が心をしっかりとつかんでいる。多くの尊い神のみ言葉が無視されている。小説や物語が注意を引いている。……想像を掻き立てるものが熱心にむさぼり読まれ、神のみ言葉は脇によけられている。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1900 年 1 月 2 日）

世が、宗教の敵の頭である。なぜなら、サタンの力は絶えず世を通して働き、そして、教会を世との緊密な仲間関係に入れて、彼らの目標、彼らの精神、彼らの原則が調和し、そして、神に仕えると公言する者と、このお方に仕えない者の間の区別をつけることが不可能になるようにするのがサタンの目的である。敵は、絶えず世を前面に押し出そうと働くのである。（同上 1895 年 2 月 26 日）

「彼らの間から出て行き、彼らと分離せよとの命令が与えられている。しかし、あなたは自分の隣人とは何の関係もないと言ってはならない。彼は世に埋没している、わたしは彼の番人ではない、と。なぜなら、これこそまさに、あなたが彼に対して言うべきことがある理由だからである。あなたに与えられた光を、枡の下に隠してはならない。……あなたが第七日目を安息日だと信じ、あなたが主はまもなく来られることを信じていることは理解されるかもしれない。しかし、自分の信仰を日常生活に持ち込まないのであれば、それはあなたの隣人にとって何の益となるであろう。……純潔な模範はあなたのすべての公言以上に世を啓発するのである。……

決して尽きることのない力の源となれるはずでありながら、水のように弱い者たちが多くいる。天はわたしたちが神にあって力強く、キリスト・イエスにあって満ち満ちた男女にまで達することができるようにと、与える用意ができている。（同上 1900 年 1 月 9 日）

10月30日

この世と妥協してはならない

「あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。」（ローマ 12:2）

キリストは、決してご自分に従う者たちが、神とつながりのない者たちと結合するという誓いを立てるようには導かれない。……

世的な人と、忠実に神に仕えている人との間には、確固たる大きな深淵がある。もっとも重大な主題、すなわち神と真理と永遠に関して、彼らの思考と共感と感情は調和していない。一種類は神の穀倉に入れられる麦として実りつつあり、他方は、破滅の炉に入れられる毒麦として熟しつつある。いったい、いかにして彼らの間に目的や行動の一致があり得るであろうか。……

わたしたちは、偏見や狭量の精神にふけることがないように気をつけなければならない。あたかも「わたしに近づいてはならない。わたしはあなたと区別されたものだから」と言っているかのような精神で他人から離れて立ってはならない。わたしたちは、同胞である人間仲間から自らを隔離してはならない。そうではなく、彼らにわたしたち自身の心を祝福した尊い真理を与えるように努めなさい。……しかし、もしわたしたちが、その罪から人間を救うために死なれたお方の精神を持つクリスチャンであるならば、わたしたちは自分の同胞の魂を愛しているので、自分が参席したり、感化を及ぼしたりすることによって彼らの罪深い娯楽を暗に賛成するようなことはできないのである。……そのような行動は、彼らを益するどころではなく、ただ彼らにわたしたちの宗教の現実性を疑わせるばかりである。……わたしたちは、どのような意味においても、人との交流やパートナーシップにおいて、真理と正義からそれることはすべて、わたしたちの益とはならないし、神を大いに辱めることであるとの確信に堅く根ざしているべきである。

人類家族の救いのための神のみ働きは、わたしたちの世において進められるべき最高に重要な無二の働きである。人がキリストを勝ち取ることができさえすれば、進んですべてのものを損失だとみなすとき、彼らの目は現実どおりに物事を見るために開かれる。そのとき、彼らは地上の魅力から転じ、天の魅力に向くのである。……

「万軍の主は言われる、彼らはわたしが手を下して事を行う日に、わたしの者となり、わたしの宝となる。また人が自分に仕える子をあわれむように、わたしは彼らをあわれむ。その時あなたがたは、再び義人と悪人、神に仕える者と、仕えない者との区別を知るようになる」（マラキ 3:17, 18）。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1910年 8 月 25 日）

10月31日

悪から守られる

「わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることであります。」（ヨハネ 17:15）

仕事のために世的な人との接触する必要がある人々は絶えず警戒し、自らを厳密に見張り続け、いつも祈っているべきである。さもなければ、敵は気づかないうちに彼らを連れ去ってしまう。キリストに従う者で、世俗の事を取り扱わざるを得ない人々に、神は彼らの必要に応じて恵みをお与えになる。もし、彼らがいつも警戒しているならば、彼らが主イエス・キリストを尊ばない人たちとの交わりに入らなければならないときに、特別な知恵が与えられるのである。彼らのすべての取引は、彼らがクリスチャンである事実を明らかにしている。彼らは、語るにもなすにもすべて親切で礼儀正しく、彼らが神の支配と規律の下にいること、また、彼らが主イエス・キリストに仕えていることを示すのである。

キリストに従う者たちは、原則と関心において世から分離していなければならないが、彼らは、自分たちを世から隔離してはならない。「あなたがわたしを世につかわされたように、わたしも彼らを世につかわしました」（ヨハネ 17:18）。……わたしたちは、迫害を逃れるために世から身を引いてはならない。わたしたちは彼らの間に住むべきである。そして、神の愛の香りが世を堕落から守る塩のようでなければならない。聖霊の感化に応じる心は、神が祝福を流してくださる水路である。神に仕える人々が地から取り除かれ、そして聖霊が人々の間から取り去られてしまったら、この地は荒廃し、破滅するままになってしまう。悪人は知らなくても、彼らはこの世の生涯の祝福でさえ、彼らがさげすみ、圧迫しているこの世の神の民の存在のおかげなのである。……キリストのご命令に従うことは、聖霊の聖化をもたらす。そして、これによって、男も女も真理の香りと救う恵みとを表すのである。……

神のみ言葉を研究し、日毎にキリストから支持を受ける人々は、天の原則の印を帯びる。高尚で聖なる感化が彼らから及ぼされる。助けとなる雰囲気が彼らの魂を囲む。彼らの従う純潔で聖なる、高尚な原則が、彼らに神の恵みの力を証する生きた証を担うことができるようにさせるのである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1905年7月27日）

キリストと律法（IV）

キリスト
わたしたちの唯一の希望

世の基がしかれる前に、キリスト神のひとり子は、もしアダムが罪を犯したら、自ら人類の贖い主となられることを誓っておられた。アダムが堕落し、世がある前から御父の栄光にあずかっておられたお方は、ご自分の王位と王冠をわきへ置き、ベツレヘムの赤ん坊となられるために、ご自分の高い権威から下りてこられた。それはアダムがつまずき、倒れた地を通ることによって、ご自分が堕落した人類を贖うことができるためであった。このお方は敵が男女にもたらすあらゆる誘惑にあわれた。そしてサタンのあらゆる攻撃は、このお方の御父に対する忠誠からそらせることはできなかった。罪のない生涯を送られることによって、このお方はアダムのすべての息子むすめが最初に罪を世に持ち込んだものの誘惑に抵抗できることを証なさった。

キリストは男女に勝利するための力をもたらされた。このお方は人のかたちのうちに、人の間で、人として生きるためにこの世に来られるのであった。このお方は試され、テストされるために人の性質の負債を引き受けられた。このお方は受肉のうちに、新しい意味において神の子という肩書を得られた。御使がマリヤに言った、「いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう」（ルカ 1:35）。人の子であると同時に、このお方は新しい意味において神の子となられた。こうしてこのお方はわたしたちの世に立たれた。神の御子でありながら、誕生によって人類家族と結びつけられた。

キリストは堕落していない諸世界と堕落した世界の住民に、人類が自分の創造主への忠誠のうちに生きることができるように十分な備えがなされたことを示

すために来られた。このお方は、サタンがもたらすことを許された誘惑に耐え、彼のすべての攻撃に抵抗された。このお方は大いに苦しめられ、そして激しく悩まされた。しかし、神はこのお方を承認なしにはしておかれなかった。このお方がヨルダンでヨハネのバプテスマを受けられたとき、水から上がられると神の御霊が黄金に輝くはとのようなかたちでこのお方の上にくだり、天からの声が次のように述べた、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」（マタイ 3:17）。キリストが御霊に導かれて荒野に入って行かれたのは、この発表の直後であった。「それからすぐに、御霊がイエスを荒野に追いやった。イエスは四十日のあいだ荒野にいて、サタンの試みにあわれた。そして獣もそこにいた」（マルコ 1:12,13）。「そのあいだ何も食べ」なかった（ルカ 4:2）。

誘惑にあう

イエスが誘惑されるために荒野へと導かれたとき、神の御霊によって導かれたのであった。このお方は誘惑を招くことをなさらなかった。このお方は一人で荒野へ行かれ、ご自分の使命と働きを熟考なさるのであった。断食と祈りによって、このお方はご自分が進むことになる血染めの道のために心の準備をされた。このお方は破壊者によって苦悩のうちにとらわれている捕囚を自由にするご自分の働きをどのように始めるべきであろうか。長い断食の間に、人の救出者としてのご自分の働きの計画全体が、み前に明らかにされた。

イエスが荒野に入って行かれたとき、このお方は御父の栄光に取り囲まれていた。神との交わりに没頭して、このお方は人間の弱さを超越して引き上げられていた。しかし、栄光が去ると、このお方は誘惑と戦うために一人残された。毎瞬、このお方の上に誘惑がのしかかるのであった。このお方の人性は待ち受ける戦いにひるんだ。四十日間、このお方は断食し祈られた。空腹から弱り、衰弱されて、精神的な苦悩にさいなまれ、やつれはてて、「彼の顔だちは、そこなわれて人と異なり、その姿は人の子と異なっていた」（イザヤ 52:14）。今こそ、サタンの好機であった。今こそ、彼はキリストに勝てると思った。ここで、あたかもこのお方の祈りに対する答えであるかのように、光の天使を装ったものが救い主の許へやってきた。そして次の言葉が彼のたずさえてきたメッセージであった。「もしあなたが神の子であるなら、これらの石がパンになるように命じてごらんなさい」（マタイ 4:3）。

イエスは単に次の言葉で応じられた、「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものであると書いてある」（マタイ 4:4）。一つ一つの誘惑において、このお方の戦いの武器は、神のみ言葉であった。サタンはキリストにその神聖のしるしとして奇跡を命じた。しかし、あらゆる奇跡よりも偉大なもの、すなわち「主はこう言われる」への堅固な信頼こそ、反駁できないしるしであった。キリストがこの立場をとっておられる限り、誘惑者は有利になることはできなかった。

神のみ言葉に精通していること、これだけがわたしたちの唯一の希望である。勤勉に聖書を探る人々は、サタンの惑わしを神の真理として受け入れることはない。だれひとりとして神とキリストの敵によって提示される憶測によって打ち負かされる必要はない。わたしたちは神のみ言葉が沈黙している点について憶測してはならない。わたしたちの救いのために必要なことはすべて神のみ言葉の中に与えられている。日ごとに、聖書をわたしたちの勧告者とすべきである。

永遠の昔から、キリストは御父と一致しておられた。そしてこのお方が人性を取られたとき、なおこのお方は神と一つであられた。このお方は神を人類とつなぐ輪であられた。「このように、子たちは血と肉とに共にあずかっているので、イエスもまた同様に、それらをそなえておられる」（ヘブル 2:14）。このお方を通してのみ、わたしたちは神の子となることができる。このお方を信じるすべての人に、このお方は神の子となる力を与えて下さる。こうして心は生ける神の宮となる。男女が神性にあずかる者となるのは、キリストが人性を取られたがゆえである。このお方は福音を通して、命と不死を明るみに出される。（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 226-228）

（46 ページの続き）

のぼるのでしょうか？

　それから、となりの家の庭にいつも鳴いているおんどりがいます。それはどこから来たのでしょう？

「たまごから」と言いますね。

　正解です。しかし、めんどりがそのたまごを産んだのでしたね？たしかにめんどりが産みました。そして、そのめんどりもまた自らたまごから生まれてきたのは、それほど前のことではありません。そしてそのたまごは別のめんどりが産んだものですが、さかのぼっていきますと、どこへもどるのでしょうか？

　では、今度はみなさん自身です。あなたはどこから来ましたか？

「ああ、お母さんがわたしを病院から家につれて帰ってきたの」と答えるでしょう。

　そうでしょうね。しかし、お母さんもかつては、ご自身が小さい赤ちゃんだったのではありませんか？そしてお母さんのお母さんも、お母さんのおばあさんも、そしてさらにひいおばあさんも、さらにさかのぼって、そして、だれにまでさかのぼるのでしょうか？（つづく）

麻婆豆腐

■材料

木綿豆腐	1丁（400g）
長ネギ	2本
ショウガ	一片（大）
にんにく	一片
ごま油	大さじ1

（調味料）

顆粒昆布だし	小さじ1
水	150ml
はちみつ	小さじ1
しょう油	大さじ2
味噌	小さじ2
水溶き片栗粉	水大さじ2　片栗粉大さじ2

■作り方

1. 長ネギ、ショウガ、にんにく、はみじん切りにする。しょう油、はちみつ、味噌はあらかじめ混ぜ合わせておきます。
2. フライパンにごま油を敷いて熱し、ショウガ、にんにくを軽く炒めます。次に長ネギを入れて、全体を炒め合わせたら火を弱めてふたをし、5分蒸し煮します。
3. 水を入れて顆粒昆布だしを振りかけ、混ぜ合わせておいたしょう油、はちみつ、味噌をフライパンに入れて火を強め、へらで混ぜ合わせます。
4. だし汁が煮立ったらさいの目切りにした豆腐を入れてさらに2分煮立たせます。最後に水溶き片栗粉を回し入れ、再び40秒ほどに立たせてとろみがつけば完成です。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校：9:30-10:45（公開放送）

礼拝説教：11:00-12:00（公開放送）

午後の聖書研究：14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先：〒 350-1391　埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係

是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。

【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。

聖書物語

パート1　第1話

はじめに戻る（1）

みなさんは、世の中のすべてのものがどのようにはじまったんだろうと、ふしぎに思ったことはありますか？きっとあると思います。多くの男の子や女の子は、いつかそのように思うものです。

みなさんの庭にある美しい花々、たとえば、スイートピー、キンギョソウ、アスター、タチアオイ、パンジーなど、それらはどこからきたのでしょうか？

「種から」と言うでしょうね。

たしかにそうです。ではその種はどこから来たのでしょうか。

他の花からですね、もちろん。そしてその花はさらに別の種からと、どんどんさかのぼっていくと、いったい、どこまでさかのぼるのでしょうか？

あなたの犬がいます。その犬はどこから来たのでしょうか。

「子犬の時から飼っているんだよ」と言うでしょう。「そしてりっぱな血統書（けっとうしょ）付きなんだ」と。

つまり！それはみなさんがその犬の父親の名前を知っているということであり、もしかしたらおじいさんの名前までしっているという意味ですね。しかし、その前はどうでしょうか？

みなさんにはっきりわかる一つのことがあります。あなたの犬のおじいさんもかつては子犬だったということです。そして、またその犬に父親がいて、おじいさんがいて、そうやってさかのぼって、さらにさかのぼって、さてと、いつにまでさか

（43 ページに続く）